

● 柔軟な働き方をテレワークで実現 手法を学ぶ研修会を全国初開催



新たな働き方の方法を熱心に学ぶ参加者

市と一般社団法人テレワーク協会は2月25日、働き方の効率化や人材が定着し成長する環境づくりのためのプログラムを学ぶ「テレワークスキル標準研修」を市役所で開きました。

研修には、市と市内企業4社の担当者10人が参加。この研修は、同協会が昨年12月に策定した「テレワークスキル標準」に基づいたもので全国初となりました。内容は8時間程度の座学と演習で、インターネットを活用してオ

フィス以外で柔軟に働くテレワークの基本から活用法にわたります。企業がテレワークを進める際に必要なスキルを学べるカリキュラムになっており、既にテレワークを導入している企業にとっては、見直しや工夫の参考になる内容。修了後に行われる検定試験に合格すると「認定テレワーカー・マネージャ」の認定証が取得できます。

講師を務めた同協会主席研究員の大沢彰さんは「パソコンやスマートフォン

ンを用いたウェブ会議や電子決裁などを活用することは、場所や時間の制約を受けない柔軟な働き方につながる」とテレワーク導入の必要性を講義。受講したVAIO株式会社の緑川あずさんは「今導入しているテレワークの方法に対する新たな気付きがあった。学んだ内容やヒントを今後の運用に生かしたい」と新たな働き方への希望を話しました。

● 新たにトレーニング室を完備 あづみ野ランドがグラウンドオープン

あづみ野ランド大規模改修工事の落成式が2月26日に行われました。当日は穂高広域施設組合の組織市町村長に加え地元区の役員、施工者など約70人が参列し、施設の完成を祝いました。

同組合の管理者としてテープカットをした太田市長は「安全管理を徹底しながら工事を進めていただいたことに感謝。多くの人に愛される施設となっ

てほしい」とあいさつ。施工者であるヤマウラ・武井特定建設工事共同企業体を代表して(株)ヤマウラ取締役副社長

の保科茂雄さんは「安曇野という観光地のランドマークとなる施設の建設に携われたことは誇らしい。無事工事を終えるため協力いただいた関係者の皆さんに感謝したい」と述べました。



新たに設置されたランニングマシンを試す組合管理者の皆さん

てきました。

新たな施設には公共浴場、体育館、多目的室、トレーニング室などが備わっています。中でもトレーニング室は、もともと浴場だった場所のため北アルプスの眺望は良好。また、トップアスリートが通うような施設でも使われている機器も設置していることが特徴です。同組合の久田裕治事務局長は「トレーニング室や体育館で汗をかき、浴場でスッキリしてほしい」と期待を込めていました。

● 20年以上の歴史に幕 三郷堆肥センターが解体



大型の重機を使って施設内のコンクリート擁壁を解体

三郷堆肥センターの解体が2月25日から始まりました。この施設は、家畜ふん尿を良質な堆肥にして提供すること等を目的に平成13年2月に建設されました。建設から20年が経った令和2年9月、施設の老朽化により、市は施設の廃止を決定しました。

施設は鉄骨造平屋建てで、延べ面積約5789平方メートル。解体作業は、周辺の農家に影響を及ぼさないよう防音や安全に最大限の注意を払いながら実施していきます。工事の完了は本年11月下旬を予定しています。

表敬訪問

市スポーツ推進委員会が全国優良団体表彰

昨年11月に宮崎県で開かれた全国スポーツ推進委員研究協議会で全国優良団体表彰を受賞した市スポーツ推進委員の皆さんが2月28日に市役所を訪れ、太田市長に受賞報告をしました。



表彰状を掲げ記念写真を撮る市スポーツ推進委員の皆さんと太田市長

コラム

安曇野平を潤す 烏川幹線用水路 ICT化へ



改修される須砂渡頭首工

烏川の両岸に広がる田園地帯に水を供給している烏川幹線用水路（烏川土地改良区所管）の工事が始まりました。同水路は昭和30年代、先人たちが苦労して築造した頭首工や幹線用水路からなる歴史ある施設です。工事は令和8年度まで順次行われ、これら施設の補修・改修を行うととも

にICTを用いた頭首工水門の遠隔化システムを導入します。これにより、パソコンやスマートフォンからの水門操作が可能となります。

烏川土地改良区理事長の唐澤守さんは「頭首工ができてから70年。特にここ数年は経年劣化による不具合が各所に生じ、維持管理に大変苦労してきた。この事業でゲートの開閉が自動化されるので労力の



頭首工前で話す唐澤理事長

軽減にもつながり非常にありがたい。県や市等の関係機関と協力して事業を成功させたい」と期待を込めていました。